

環境特集2021

6万円で、国民1



持ち込まれた食品は、賞味期限をチェック。期限の記載さえあれば、ばらになった切り餅の小分けパックでもOKという＝フードバンクまえばし

状態(小林さん)。フードバンクの存在すら知らない困窮者も多く、「行政と連携を

缶詰1個からでも

個人でも取り組めるのが「フードドライブ」だ。家庭で余っている食料を学校

や地域、職場などに持ち寄り、フードバンクなどを通じて寄付する活動で、県庁でも昨年10月に実施したほか、みどり市が月2回、回

ドバンク北関東や地域の企業や個人から食品提供を受けている。現在はコロナ禍

収と配布を行うなど、取り組む自治体も増えている。児童生徒が実施するケースもあり、「できること」の連鎖が生まれている。

生活協同組合コープぐんま(桐生市相生町)は、県内全7店舗と一部宅配センターでフードドライブに取り組み、それぞれ県内のフー



5月15日に行われたあかるい未来ネットのフードパントリー。地元飲食店に発注した弁当も配布しており、配布会に100人以上訪れたこともあったという

「これからも
る範囲で長く続けられ
う、ネットワークを広
いきたい」(菊池さん)

ドバンクなどに届ける。コープ昭和店前橋和町に寄せられた食回収した総合企画室の洋さんは、「地域に浸透いて、1週間ほどいいになると感謝するは最寄りのフードバンまえばし(同市大手町)に込み、賞味期限をチェして受け付け完了。残数1〜2カ月以上がたれ、温度管理が必要な食品など回収できないもあるが、缶詰1個でも歓迎している。

県気候変動対策課状を知ることが行動がる。個々が食品ロミのためにできることしていききたい」とすすではフードドライブ、ため、手順や回収不品などを解説した実ユアルを作成ホーシで公開している。